

【就労事例部門】

MSP賞 田中 康文

漢方内科の医師

私は、今年で75歳になる男性医師です。医学部4年の22歳に網膜色素変性症に罹患し、徐々に視力低下と視野狭窄が進み、50歳前後で全盲になり、55歳で約25年間勤めた大学病院の神経内科を退職しました。

その後、医師として生きるために漢方医学を勉強し、現在は栃木県内でふれあい漢方内科というクリニックを開業しています。最近ではオンライン診療も行っており、ホームページを見て診察を希望する患者さんも増えています。特に、皮膚疾患は目に障害のある医師には難しいと一般的には思われていますが、私は、予約時のメールに皮膚の状態の記載と共に、患部の写真も添付してもらい、看護師の説明を聴いています。診察当日は、パソコンのディスプレイに患部を直接見せてもらい、看護師から状態を聴いて診察しています。

東洋医学は個々の臓器を対象にするのではなく、身体全体の気や血の流れを問診などで推測して治療にあずかる分野です。現在の医学は西洋医学が主流ですが、漢方などの東洋医学も患者さんをよくする上では必要ではないかと思っています。視覚に障害がある医師でも十分に対応できる分野であり、今後、もっともっと発展してほしい分野だと思っています。

審査員コメント

徐々に進行する視力低下等に向き合いながらも、医師としてできることを諦めなかった姿勢に感銘を受けました。同じく東洋医学である鍼灸は視覚障害の方の仕事になっていることを鑑みても、東洋医学を求める方にとってより安心感があるように思います。

田中 康文

私は、今年で75歳になる男性医師です。医学部4年の22歳に網膜色素変性症に罹患し、徐々に視力低下と視野狭窄が進み、50歳前後で全盲になり、55歳で約25年間勤めた大学病院の神経内科を退職しました。

その後、医師として生きるために漢方医学を勉強し、現在は栃木県内でふれあい漢方内科というクリニックを開業しています。

【就労事例部門】

MIP賞 高野 紋子

専業主婦、競技経験ゼロからの アスリート雇用

網膜色素変性で視覚障がいがあります。

専業主婦で2児の母、家事と育児に追われる毎日でした。

アイセンター病院に年1回定期受診しているのですが、一昨年に受診した際、横田医師からなにかスポーツ挑戦してみないかと誘われ、J-STARを紹介していただきました。そこでローイング協会から選出していただき、J-STAR6期性としてローイング競技をスタートしました。

育成選手になるための基準タイムを突破し、育成指定選手になりました。

昨年アジアパラ大会に出場、今年全日本ローイング選手権にエキシビションで出場しました。

この競技をはじめて出会ったクルーから障害者のアスリート雇用の話を聞き、登録したところ、今年5月にSCSK株式会社と雇用契約をしていただきました。

特徴としては、全く競技経験ゼロ、見たこともない競技でしたが、たまたま住んでいる近所に練習出来る環境があったことです。

また、この競技をはじめて出会った方々の繋がりで就労に繋がったことです。

今の仕事は基本的に競技の練習や合宿、大会参加がメインであり、出社は求められていません。

障がいのせいで働けないのではなく、障がいのおかげでこの競技に出会い、働けていると思います。

働き方は様々です。

年齢関係なく、やってみれば意外と出来ちゃう、だからなんでも挑戦してみる。これが意義だと思います。

審査員コメント

一つのきっかけで輝き増す人生。勿論行間にはたくさんのしんどいことや努力があったのだと推察しております。障害の有無に関わらず、「今、一步踏み出すことに」迷っている全てのビジネスパーソンに共有したい素敵なストーリーですね。

高野 紋子

視覚障がい

パラローイング育成指定選手／パラローイングPR MIX4日本代表／J-STAR6期

2児の母

【就労事例部門】

MEP 賞 / 日本眼科医会賞 片岡 亮太

人生を丸ごと生かした 「自分だからこそ」の働き方

私は、自分の経験を、多角的な働き方に繋げることに注力して歩んできました。

多くのご縁の中で、国内外での演奏や、筑波大学附属視覚特別支援学校の小学部や高等部音楽科等への指導に取り組んでいる和太鼓の演奏は、11歳の時に受けた、静岡県立沼津盲学校での授業が原点です。

一方で、同じく沼津盲学校時代の重度重複障害を有する友人たちとの出会いを機に関心を抱いた社会福祉を大学では学び、

社会福祉士の資格を取得したうえで、専門知識と、障害当事者としての経験を合わせた講演や執筆にも力を入れてきました。

近年は、2011年に一年間在米していた時に学んだ、障害学の視点を盛り込み、演奏と共に、多様性や差別、人権についてお伝えする舞台も実施しています。2018年からは、社会福祉士としてのコミュニケーション技術を生かし、株式会社アオバヤ(宮城県仙台市)にて、社員の方々のメンタルヘルスのサポートにも携わっており、電話での相談業務やスピーチの配信などを行っています。

これらの仕事は全て、私に視覚障害があったからこそ巡り合うことができたものです。

障害も含め、持ちえたものを「自分だからこそ」の働き方に繋げることは、私の人生を豊かにしてくれるだけでなく、障害の有無を問わず、多くの人への強いメッセージにもなり得ると信じ活動しています。

審査員コメント

「多角的」という言葉を実践していらっしゃるの素晴らしい。ある時は和太鼓奏者、ある時は視覚障害当事者、ある時は福祉の支援者、ある時は文章の表現者。人間とは本来多面体の存在。一つの肩書では説明できない。自分を構成するどんな要素も大切にしておられるその生き方と考え方に、強いシンパシーと共に輝きを感じました。「いったい何者ですか?」と尋ねられて、一言で説明できないのが人間なのです。

片岡 亮太

1984年生まれ。

生来弱視で、10歳の時の失明を機に転校した盲学校にて小学6年の頃より和太鼓の演奏を開始。

2007年、上智大学文学部社会福祉学科を首席卒業、併せて社会福祉士の資格を取得。

同年から今日まで、国内外での演奏や指導、講演、執筆、メディア出演等、音楽と言葉を主軸に幅広い活動を重ねている。

【就労事例部門】

MIP賞 白井 崇陽

全盲バイオリニストの演奏活動について

デュオで演奏活動をしているバイオリニストボーカル白井崇陽さんをご紹介したい。彼は全盲だが演奏も作曲もこなす。新曲を演奏する際は、自分で録音したデモ音源かPC制作ソフトで作った譜面をくれる。できることはすべて手間を惜しまず、わかる形で情報を伝えてくれる。私が演奏したい曲もデモ音源を送り、弾いてほしいラインを指定する。絶対音感はないそうだが相対音感があるので、最初の音を見出しそこから何度上か下か楽器を鳴らしながら探っていくようだ。暗譜の上でリハに入れ、アレンジの相談まで無駄がない。歌詞もリハ音源もブレイルメモを使い、その日のリハ音源をすぐ送ってくれるのも助かっている。ステージが広い時は足元にロープを貼りマイク前をT字にし動線と正面を把握している。クラシックに基盤のある演奏力、表現力、状況把握は見えるか見えないかとは関係がなく、枕詞のいらぬ素晴らしい演奏家だと思う。音楽とはややずれるが、彼は衣装を買う時と普段着を買う時とでは、お店への同行者を変えるという。晴眼者にとって視覚情報の影響力を理解しており、どう見られたいかを意識した上で、その都度環境や状況にあったおしゃれな服を(衣装なら華やかさを)(普段着なら今の流行を)選べる人を選んでいるというのは、幾重に重なって彼の面白みだと感じている。(他薦)

審査員コメント

バイオリンの卓越した技術や表現力があることに加え、様々なICTの活用、ステージ上にロープを張り付けるなどの独自の工夫、仲間とのつながりの中で自身のアピアランスを確立するブランディングの手法など、彼の生き方自体が1つのアートだと深い感銘を受けました。バイオリンやゲームなど、自分の好きなこと得意なことで人生を輝かせる彼の考え方にぜひ学ばせていただきたいと思いました。

白井 崇陽

バイオリニスト。情感豊かに心を包み込む暖かい音色は歌そのもの。オリジナルアルバム「空と大地のノスタルジア」では、歌唱にも挑戦。全国各地での演奏の他、学校での講演(トーク&ライブ)・舞台音楽への参加・アニメやゲーム音楽のレコーディング・ラジオパーソナリティ・囲碁など幅広く活動中。ゲームアクセシビリティ研究チームIGLインビジブル・ゲーミングラボ代表。

【就労事例部門】

MSP 賞 NPO法人みのり 領家グリーンゲイブルズ

視覚障害者による珈琲焙煎 「僕らは耳で焙煎をする。」

珈琲の焙煎は、“ハゼ音”と呼ばれる珈琲豆のはぜる音で、焙煎の進行を管理しています。プロの「焙煎士」と呼ばれる方々も、耳からの情報を頼りに焙煎を行います。

音が頼りであれば、視覚障害者にも珈琲焙煎はできる。そんな思いから、領家グリーンゲイブルズでは、音と香りを頼りにして視覚障害者が主体となって珈琲焙煎を実施する事業を開始しました。音に頼り、繊細な感性を持っている視覚障害者だからこそ、珈琲豆の焙煎の音を聞き分け、僅かな違いにも敏感に反応しながら焙煎を行うことができます。

利用者は、音声秤を頼りに珈琲豆の計量を行い、補助のもとで焙煎の温度管理、時間管理を行います。販売用に製品を作る際には、計量、パック詰めも利用者が行います。

当事業所の焙煎は、自動の機械による焙煎をするのではなく、視覚障害のある人が焙煎をする技術を活かしているところが大きな特徴といえます。それにより携わる視覚障害者が誇りを持って仕事ができるようになっていることがこの活動の意義です。

審査員コメント

「コーヒーの焙煎」その言葉からは、とてもおしゃれで優雅な響きを感じられます。

これまでの視覚障害者就労のイメージを覆し、誰もが興味を惹かれる魅力的なキャッチフレーズとセンスの良さで、視覚障害者の可能性を形にされたことに敬意を表します。そして、なによりコーヒーがおいしいので、最高です！

NPO法人みのり 領家グリーンゲイブルズ

領家グリーンゲイブルズは、障害福祉サービスの多機能型（生活介護・就労継続支援B型）事業所です。

主な利用者は視覚障害者です。

視覚障害者が視覚以外の研ぎ澄まされた感覚をいかし、聴覚、指先、想像力を駆使して制作活動を行っています。

作業の内容はコーヒー焙煎、農作業、点字名刺の作成などです。

【就労事例部門】

入選 中嶋 琢

【企業ボランティア】社員×地域×社会貢献： アクセシビリティ向上の取り組み

視覚障害を持つ社員がiPhoneのVoiceOverの操作方法を社員に教え、ボランティア社員と共に地域の視覚障害者にVOの基本操作を教える取り組み

視覚障害がある社員がその特性を活かして講師を養成、社員をボランティア講師として起用し、地域の視覚障害者にiPhoneのVoiceOver機能の操作方法を教える活動を通じて、社会貢献と自社のアクセシビリティ向上、社員の育成を行っている点が特徴です。

以下の3つの点で意義があります。

1. 社会貢献: 地域の視覚障害者にVoiceOverの操作方法を教えることで、情報アクセスの改善と自立を支援します。
2. アクセシビリティの啓発: 講師となる社員がVoiceOverの操作方法を習得し、その考え方や仕組みを理解することで、自社の商品やサービスにおけるアクセシビリティの啓発に繋がります。
3. 社員育成: 特にUI/UXやDX推進に関わる社員にとって、デジタルアクセシビリティの重要性を理解するための貴重な経験となります。

視覚障害を持つ社員、ボランティア社員、地域の視覚障害を持つ方、すべての関係者が相互にメリットを享受できるWin-Winの活動となっています。

また、企業が持つリソースを活かして、社会貢献と社員の成長を同時に実現するモデルとして、他の企業にとっても参考になるものです。

審査員コメント

コミュニティや職場を構成する個々人が有機的に縦糸・横糸としてつながることで、相互に信頼ややりがい生まれる、ウェルビーイングをめざす仕組みづくりの好例と思います。

中嶋 琢

網膜色素変性症の盲導犬ユーザーです。現在、ITサービス系企業の総務関係の業務を担当し、企業カルチャーの変革にも取り組んでいます。安全衛生、福利厚生、社会貢献活動にも力を入れており、誰もが働きやすい環境の整備を目指しています。また、現在は人材育成にも尽力し、個人の成長と企業の発展に貢献しています。

【就労事例部門】

入選 鈴木 モーリッツ

PC操作時における補助機器としてのMIDIコントローラーの利用

私はドイツでソフトウェア開発をしている自営業者です。プログラミングの際に画面上のものを認識するのにしばしば問題が生じます。通常、エディタやIDEではGUIを自分に合った環境(書式、色、コントラスト等)に設定できるので殆ど問題はありませんが、その他のソフトウェアにおいては大抵の場合、困難であるか、ほぼ不可能であることが多いです。

ある日、趣味のシンセサイザーを操作していた時、MIDIコントローラーを使って画面上のグラフィックの表示を調節することを思いつきました。そのようなコントローラーはUSBでどんなコンピューターにも繋ぐことができ、そこまで費用もかかりません。MIDIコントローラーには様々なものがあり、たくさんの押しボタン、スライドツマミや回転ツマミ等がついています。それらにどの役割を持たせるかをMIDIインターフェースで自由にプログラミングできます。

例えば私自身はMIDIコントローラーのボタン操作で画面のコントラスト、ガンマ値、色彩の調整、色の反転をするソフトウェアを作りました。キーボードショートカットに代わり、物理的な回転ツマミで画面表示を調節できるようになり、作業がずっと楽になりました。パソコンの再起動や余計な設定、構成の手間もなく、繋いで直ぐに使うことができます。

審査員コメント

視覚障害者のPC操作の補助機器としてMIDIコントローラーを使うという、まだ誰も気づいていなかった手法を発見し、実際に便利に活用している応募者の発送の豊かさとそれを支える技術力に深い感銘を受けました。本事例は、視覚障害者の専用機でなくとも、既存のMIDIコントローラーを活用すれば、多くの視覚障害者がPCやスマホをより便利にしかも安価で活用できるようになるのだという、実現可能で極めて有用な示唆を与えてくれます。

鈴木 モーリッツ

2001年ベルリンの電気回路設計の会社に入社。ソフトウェア、ハードウェアのプログラミングに携わる。
2004年にソフトウェア開発者として独立。
2009年に見えづらさに気づき始め、2012年に網膜色素変性症と診断される。

【就労事例部門】

入選 八巻 真哉

チームワーク、テクノロジーが生み出した スーパースペシャリスト

私は、外資系IT巨大企業の世界初の正社員。知識は素人から温かい仲間とともに、プロフェッショナルの力をまとい、人間性は仲間とともにほぐくみ、重度の視覚障害であっても仲間と未来のテクノロジーで働き方だけでなく、生き方までも作った物語。世界中の社員に向けてコミュニケーションを作り、自らの障害特性を理解していただくだけでなく、それが価値でもあり、楽しいことであることを伝えた。10年近くの年月は経ち、いつしか人の力は世界に広がり、世界のスタンダードとなる、仲間とともに、スクリーンリーダーを作り上げる。そして、多くの人が利用しているありふれたスマートフォンにスクリーンリーダーを導入し、アルティメットイノベーションを実現する所属会社で使うスマートフォンは同じ企画とし、どこの国のオフィスに行っても視覚障害は過去のものとなった。全世界で展開する直営店でも、製品の在庫管理、正確な決済、チームへのサポート依頼、法人のお客様との連携、お客様の懸念までも、スクリーンリーダーさえあればほとんどが解決する。テクノロジーの進化だけでなく、何より人の力が生み出した。働き方生き方だと感じている。テクノロジーの最前線にいる立場が、人との思いが、障害特性にかかわらず、人の可能性を解放させると信じて止まない。いただいたハッピーを世界に感謝とともに広げたいと思っている。

審査員コメント

「障害特性にかかわらず、人の可能性を解放させると信じて止まない」という言葉が印象的でした。しかも、アイデアと行動力で世界にハッピーを広げた功績は大きいと思います。これからも大きな夢の実現に頑張してほしいと心から思いました。

八巻 真哉

東北大学医学系研究科医学部在学中網膜症と知り、大学院への進学はおろか、働き、生計を担うだけの力は全く失う。一時期、引きこもり生活になり、国立西多賀病院、社会福祉法人ありのまま舎で自立、たくさんのサポーターとともに生きていることを知り、神経変性、難病とともに生きる方と共に生活し、この2024年未来の世界を夢見た。ニュートンと言う科学雑誌が描く未来が人々を救うと夢を見る。

【就労事例部門】

入選 竹田 幸代

タンデム自転車で人の環広げるプロジェクト

中途視覚障害者の私。8年前に「自転車は人生を広める!」がスローガンのNPO法人 サイクルボランティア・ジャパンに出会い、国内外で友好の輪を広げ、風を切り景色を感じるツーリングに参加している。今年は、世界視力デーに合わせ、台湾と日本の視覚障害者とボランティア50名のチームで台湾1周に挑戦する。私たちのミッションは「視覚障害があってもあきらめないことを広げる。そして、目の大切さを伝えること。」視覚に障害を持った私たちも、タンデム自転車に出会ったことで、多くの人に勇気と目の大切さを訴える、とても意義のある活動に参加するチャンスを得た。

タンデムの公道走行が全国で解禁になり、関心が高まっている今、より多くの視覚障害者にタンデム自転車に出会っていただくためにパイロット養成は未来につながる環境づくりだと考え、現在、運営資金を協力いただくクラふぁんの準備をしている。

リターンの商品などはタイや国内の自転車仲間、障害者就労支援事業所に依頼している。多くの人たちにタンデム自転車の魅力を伝え、自転車で人生を広げるきっかけをつくりたい。障害者と健常者が共に楽しむ社会を築くための支援の輪を広げたいと思っている。

審査員コメント

海外の方と協力をした事業実施のみではなく、福祉事業所や海外企業と連携した取り組み。グローバルな活動が今後さらなる展開となる事を期待する。

竹田 幸代

消費生活アドバイザー

30歳代後半に視覚障害2級、現在「見える」末期。

フリーランスとして、企業や視覚障害者向けの研修講師などをする傍ら、医療と福祉の連携、まちづくりなど、社会を変えるプロジェクトを進めている。

モットーは「キラキラが見えなくなっても自分がキラキラしていよう!」

【就労事例部門】

入選 相沢 浩貴

徐々に希望は挑戦

視覚障害者であることを受け入れられなかった私は、徐々に視力を失っていく中ですべてをあきらめる人間になっていった。

そんな私に、iPhoneのVoiceOverが希望を与えてくれたが、どうしても文字入力とうまくできなかった。

その原因はたった一箇所の設定だった。

こんなことで使えなくなるなんて、ほかにも同じように困っている人がいるはずだ。この思いがコミュニティを立ち上げるきっかけになった。

情報共有を続けていく中で見えてきたのは、デバイスを使いこなすためのスキルよりも、コンテンツの設計に問題が山積していることだった。

また、先進国の中でも特に日本はアクセシビリティへの対応が遅れているという事実を知り、企業へのアプローチを実現するには法人化が必須という考えに至った。

さらに、デジタルコンテンツを楽しめないがゆえに、社会との共通の話題に偏りが生じていることにも注目した。

これらの課題を解決するために、VoiceOver検定試験の実施、文化芸術作品をより楽しむためのコミュニティメンバーとのディスカッション、そのアイデアを盛り込んだコンテンツ制作、さらには企業へフィードバックしていく組織づくりを実行している。

No Accessibility No smart

審査員コメント

徐々に視覚を失う中であっても、「ほかにも同じように困っている人がいるはずだ」というマインドを持って、新たな希望を自ら見つけたところはすごいです。

相沢 浩貴

NPO法人スマートアクセシビリティ 代表理事。
レーシングカートで時速70kmで走ることを夢に見ている。
網膜色素変性症。
2022年、NPO法人smartアクセシビリティ立ち上げ。

【アイデア部門】

価値転換賞／日本眼科医会賞 南部 勇樹

高度なスキルを持つ スペシャリスト障害者雇用の創出とマッチング

障害者の中には難関国家資格やスキルを持つ社会的にスペシャリストと呼ばれる人財(人材)が多い。

現在、社会ではバリアフリー、アクセシビリティ、インクルーシブ、SDGsなど『多様性』や『合理的配慮の提供』が求められているが、そのモノやサービスは健常者が考えた理想であり障害当事者が描く理想とのチグハグさは否めない。

私も以前は、日本の技術資格の最高峰である技術士(建設部門)などの技術系国家資格を所持して社会資本整備を担う技術者として働いていたが、病気の進行により視覚障害者となり「できないこと」が増え諦めざるを得ない状況となり、地元の障害者雇用の事務職へ転職したが、技術者としての夢は諦めきれず活躍の場を模索しているが市場がない。

専門としていた社会資本整備(道路、河川、港湾、空港、鉄道など)では健常者が設計したものが殆どで視覚障害者として利用しづらいものが非常に多い。

このような現状の解決策として、設計、現地確認、検証の過程で高度なスキルを持った障害者が携わったことを証明する公的認証制度や発注・入札制度における評価の導入など、様々な分野において高度なスキルを持つスペシャリスト障害者雇用の市場創出とマッチングにより、障害の有無に関わらず全ての人にとって便利で将来の夢を見られる社会にしたい!

審査員コメント

視覚障害を負うことによって、それまでに習得した専門性高いスキルが生かされなくなることは、人生においても、社会においても大きな損失です。今、日本社会は少子化と労働者の高齢化により、労働力人口が減る局面となっており、特に社会のインフラ整備やメンテナンスに関わる人材不足は深刻であると見聞します。チャンスです。ぜひ、実現に向けて頑張ってください。

南部 勇樹

福井県在住の52歳 網膜色素変性症による視野狭窄で白杖使用。
元国土交通省職員(技官)でダム・河川用水門、河川用排水機場、道路融雪設備の設計や防災業務などに26年間従事するも中途視覚障害により退職。技術士(建設部門)、一級土木施工管理技士、一級電気工事施工管理技士、高等学校教諭(1種・工業)などの資格を所持。

【アイデア部門】

環境整備賞 山内 敦

ロービジョンコンシェルジュ ～「福祉の見える化」を目指した資格制度～

■目的

1. 視覚障害者自身が専門知識を身につけて他者をサポートするという、新たな社会的役割を創出
2. 視覚障害者が情報にアクセスできない問題や、都市部と郊外における福祉サービスの地域差を解消

■内容

ロービジョンコンシェルジュは、視覚に関する困り事を持つ方に適切な情報を提供する相談・案内役です。この資格は視覚障害者を対象としており、福祉知識と音声などを活用したPC操作技能を習得することが求められます。資格取得者はクラウド上で情報を共有し、多職種との連携を通じて迅速かつ幅広いサポートを提供します。

■就労場所

各地域の眼鏡専門店を想定しています。見え方の困り事を抱えた方が多く訪れる場所であり、手軽に立ち寄れるスポットです。眼鏡店にとっても、福祉用具の販売促進だけでなく、地域社会での信頼を高められるメリットがあります。

この取り組みは、視覚障害者に新たな就労機会を提供するだけでなく、地域全体の福祉向上にも貢献します。ロービジョンコンシェルジュが各地域に広がっていくことで、地域差を解消して、誰もが平等に情報へアクセスできる社会を目指します。

視覚障害者が誰も取り残されない「福祉の見える化」を実現しましょう。

審査員コメント

良いアイデアと思います。実現に向けて、ロービジョンコンシェルジュをどのように「認定・認証」するのか、眼鏡店以外に情報のハブとして適当な場が構築できないかなど、深掘されると良いと思いました。

山内 敦

南大阪の眼鏡店、「メガネの金剛」に勤務。現在はロービジョン対応を専任業務としています。数多くのロービジョンの方を見てきて、見えない・見えにくくても出来ることがたくさんあるということに驚いています。この可能性を眠らせることなく、社会で発揮するお手伝いができればと…日々、多くの方々と出会い、勉強中です。

【アイデア部門】

ビジネスプラン賞 NPO法人みのり 領家グリーンゲイブルズ

視覚障害者向け、珈琲焙煎・バリスタ・ アロマセラピーの宿泊型の研修施設を作る

視覚障害者を対象として、珈琲焙煎とバリスタ、アロマセラピーの研修を実施する自立訓練施設を開設し、短期入所施設を併設することで、全国から宿泊型の研修を受け入れが可能な施設を開設します。また、訪問型の自立訓練事業として各地に出張研修を行います。

珈琲焙煎コースでは、領家グリーンゲイブルズの自家焙煎珈琲「僕らは耳で焙煎をする。」のノウハウを指導します。バリスタコースでは、視覚障害者が珈琲を抽出し、お客様に提供できるよう、必要な知識と技術を指導します。アロマセラピーコースでは、香りを頼りにお客様のリラクゼーションを実施できるよう、アロマセラピー検定などに準拠した教材を用いて研修を実施します。

参加者は、これらの研修を安心して実施できるよう、短期入所施設にて数日の宿泊をしながら、泊まり込みで研修を受けることが可能となります。現在、韓国では「シロアムセンター」に視覚障害者を対象としたバリスタ研修コースが設置されていますが、日本初の取り組みとして、研修コースを設置したいと考えています。

審査員コメント

このような研修（バリスタ研修）が、すでに韓国では視覚障害者向けに行われており、国内でも新たな職域の開拓として、応募組織が研修コースを設置する、という計画に感銘を受けました。

NPO法人みのり 領家グリーンゲイブルズ

領家グリーンゲイブルズは、障害福祉サービスの多機能型（生活介護・就労継続支援B型）事業所です。

主な利用者は視覚障害者です。

視覚障害者が視覚以外の研ぎ澄まされた感覚をいかし、聴覚、指先、想像力を駆使して制作活動を行っています。

作業の内容はコーヒー焙煎、農作業、点字名刺の作成などです。

【アイデア部門】

入選 村上 友香

喋る自動販売機

医療従事者として夏はとくに冬でも熱中症だったり脱水に着目してアイデアをあげさせていただきます。

街中で水分補給をしたい時にスーパーが周りになかったりコンビニがないこともあると思います。

その中で喋る自動販売機があったらいいなと思いました。

例えば、スッキリしたものが飲みたいと言った際に飲み物を提案してくれたりお金を入れた時にお釣りが出ますなどいってくれたりすると視覚障がい者の方も購入しやすいのではと思いました。

あとはボタンに触れた際にボタンが冷たかったら冷たい飲み物、すこしあたたかかったらあたたかい飲み物など手に触れて感じられる自動販売機があれば過ごしやすいのではないかと思います。

審査員コメント

「自販機でジュースを買うのは、ある意味ロシアンルーレット」と言っていた視覚障害者の方がいました。直接的に就労のアイデアではありませんが、音声をつけるのは技術的には十分可能だと思いますので、どんな自販機にすれば自由に買いたいものが買えるのか、メーカーさんの開発に携われたらいいなと思いました。昨今の猛暑、酷暑の中、脱水症状にならないために水分補給が重要という医療職らしい着眼点も、当事者のことを思う優しさが感じられ素晴らしいと思います。

村上 友香

視能訓練士養成校 学生

【アイデア部門】

入選 田中 望美

VTuberの動画配信による 広告収入・投げ銭制度

視覚障害者がいきいきと活躍できる仕事として、VTuberの動画配信による広告収入・投げ銭制度を考えました。

対象者は、若年層の後天的に視覚障害になった方、進行性の視野の病気の方、弱視の方を対象として考えます。

実際の収入として広告収入+投げ銭制度を考えます。投げ銭制度により、クラウドファンディングのように応援したい人から直接的な金銭援助が受けられます。

メリットは①歩行に不安のある視覚障害者が座ってできる ②顔出しをしないためプライバシーの保護になる③視覚障害者は事前に練習をすれば可能な作業が多いため、家族の協力があれば動画配信が可能である という3点が考えられます。

また、家族間で会話が生まれるため日常生活の質が向上すること、孤独を感じやすい視覚障害者が視聴者との交流ができること、視聴者の理解が深まること が考えられます。

デメリットは、視機能が正常な方の協力が必要、収入が不安定な点が挙げられます。副業的に空いた時間を使って発信していくことが推奨されます。

以上より私は視覚障害者がいきいきと活躍できる仕事として、VTuberの動画配信による広告収入・投げ銭制度を考えました。

審査員コメント

VTuberの動画配信はこれまでに広く普及しているわけではなく、新しいものとしての着眼点は可能性を感じさせ、いいと思いました。また、視覚障害者だけではなく、視覚障害者が視聴者との交流ができることで視聴者の理解が深まることなどは、相互理解で誰もが住みやすい社会を作ることに関与すると思いました。さらに、視覚障害者だけではなく他の障害者にも応用できそうなところも感じました。

田中 望美

視能訓練士養成校 学生

【アイデア部門】

入選 泊 菜央

美味しさ探求

お茶は、料理や場面、目的、そして好みに合わせて選ぶことができます。ワインと同様に、お茶も産地や収穫時期、加工方法によって味や香りが異なります。また、特定の成分が血糖値の上昇を抑えるなど、健康効果が期待できるお茶もあります。

視覚障がいの方であれば、見た目にとらわれず、香りや味を重視して、新たなお茶の楽しみ方や組み合わせを発見できるかもしれません。香りや味、飲食の組み合わせに対する好みは人それぞれです。嗅覚や味覚、触覚を活かすことで、より豊かな食の組み合わせを提案できるのではないのでしょうか。

お茶は食事時だけでなく、さまざまな場面で楽しむことができます。たとえば、朝の目覚めには、この香りと栄養素を持つお茶はいかがでしょうか。リフレッシュには、別の香りと栄養素のお茶がおすすめです。また、このお茶にミルクを加えると、味わいがどう変化するか、といった提案も考えられます。

シチュエーションに合わせた多彩なお茶の提案が、より豊かな生活をサポートすることと思います。

審査員コメント

お茶のクオリティを評価するうえで、水色以上に香織や味は重要な要素になります。そして、視覚に左右されずに香りや味にフォーカスできる視覚障害者は、この分野では健常者よりもアドバンテージがあると考えます。私も、応募者が考えるような、いろいろなお茶と、様々な生活のシーンを組み合わせて提案してくれるようなサービスがあったら、ぜひ使ってみたいです。

泊 菜央

視能訓練士養成学校 学生

【アイデア部門】

入選 川東 勇輝

「音」を仕事に。

私が考えたのはオーディオ関係の仕事です。

現代では街中でイヤホンやヘッドフォンを着けている人々も多く、加えて視覚障がい者の方々のサポートするグッズでも「音」を使うものが多いと感じます。

目が見にくかったり、見えなくなってしまった視覚障害者の方々は耳が良いというより、聞こえるものから情報を得ようとするので、感覚が研ぎ澄まされやすい。

そこで、需要が高いオーディオ関係の仕事で大きく2つの役割があると思います。

1つは、「音」を聴くスペシャリストで、沢山の製品が開発される中、この「音」は聴こえやすい、聴こえにくいを、聴き分けるのは普段視覚が無くなってしまった方々の方が適していると考えます。

2つめは、ノイズキャンセリングの体験です。

現代のイヤホンには外部の音を遮断する機能があるが、音を遮断しすぎるのは事故などにつながるため危険であり、より良いバランスが求められる。

そこで実際に視覚がない方々に使用してもらい、交通などの移動に必要な「音」と娯楽の「音」を両方楽しめる製品の開発は、どんな人々にも喜びをもたらすと考えました。

よって、視覚障がいの方々には、「音」にこだわる職業が適していると考えます。

審査員コメント

視覚障害者の方の中にはイヤホンやオーディオ機器に関心が高い方が多く、音質や操作性など多くの種類を試し聞きされるかたもいらっしゃいます。同じく、ノイズキャンセリングの品質も生活の質を左右するので、こだわりを持って選ぶ方が多い印象です。

視覚障害者が「音」を聴くスペシャリストであるという気づきを、現代人にとって必需品となった音声デバイスに関する仕事と結びつけた発想が、現実には即していると思い選びました。

川東 勇輝

視能訓練士養成校 学生

【アイデア部門】

入選 武田 果歩

災害時の自動音声案内

災害時における自動音声案内の仕事です。

視覚障がい者の方は、音からの情報を頼りに生活しておられると考えています。晴眼者は情報の8割を視覚情報が占めていますが、これは自分が見ているものに頼りきっているとも言えます。

災害が起きると混乱が生じ、公共の場には人が溢れ、停電すると周辺が見えなくなります。

暗い場所で階段やお手洗いを探すのは困難で時間も要するため、混乱が大きくなると考えられます。視覚障がい者の方は、普段利用している公共の場を記憶し移動されているとお聞きしました。それぞれの生活環境で記憶されている場所を記憶で補っている力をお借りできると考え、施設や交通機関の自動音声案内を事前に録音して頂きたいと考えました。

審査員コメント

能登半島地震や宮崎沖での地震等、各地で自然災害が頻発しています。南海トラフ地震臨時情報も初めて出されるなど、自然災害への備えは喫緊の課題。災害時にどのように対応・行動すべきかという点について、当事者の視点で課題を確認する事。その上で必要な準備を行う姿勢は非常に重要であり、大切にされるべき視点と考えます。

武田 果歩

視能訓練士養成校 学生

【アイデア部門】

入選 中島 香鈴

AI知能向上のために

最近ではAIを使った教育や、AIの音声機能を使って人と会話することができる世の中になってきました。しかしながら、AIと人との大きな違いは感情がないことだと言われています。その、人の感情をAIが感知できれば教育や介護の面でAI機能が活用できるのではないかと考えました。そこで視覚障害者の方は目ではなく耳で聞いた情報で人と会話しておられるということに気がつきました。目が見える人は表情やその場の雰囲気など目から相手の感情を読み取ることができますが、視覚障害者の方は耳で聞こえた情報を頼りに相手の感情や年齢層を読み取られていると思います。声の抑揚、声色や大きさや様々なことを読み取られて会話しておられると思いました。これはAIの音声機能も同じことが言えるのではないかと考えました。AI技術を売りにして活動している事業にコミュニケーションを取る際の情報を提供して知識として備えることで人とAIとのコミュニケーションを取ることがより簡単になるのではないかと考えました。

審査員コメント

応募者がいうように、視覚障害者は、相手の声の抑揚、間の取り方、震えなど、様々な要素を感じ取って話し手の感情を読み取っています。この感覚を対話型AIの進歩に応用できれば、AIが話し手の気持ちに寄り添ってくれるようになったり、また、AIが人間のように感情をこめて語り掛けてくれるようになるかもしれません。このアイデアには、大変大きな可能性を感じました。

中島 香鈴

視能訓練士養成校 学生

【アイデア部門】

入選 窪田 葵

繊細な音を聞き分ける点検のお仕事

情報を得るために最も大切な視覚を失った方は、聴覚や嗅覚、触覚や味覚などの他の感覚が鋭くなり、生かすことが出来るのではないかと考えました。その中で思いついたのは、聴覚を使った点検のお仕事です。缶詰などの缶は棒などで叩くと音がなりますが、異常があると通常と違った音が鳴るようです。どこかでこの作業が行われているのを見たことがあるのですが、聴覚が鋭くあればより繊細な音を聞き分けられると思いました。レーンで缶が流れてくる様な環境であれば、たくさん動くようなこともないので、視覚障害者の方も作業しやすいと思います。運ぶなどの作業は見える方が行い、助け合いながら行えると思います。

視覚障害者の方の講義を受けるまでは、見えない=なにもできないのではないかと感じていました。実際自分で目を瞑ってなにかを試してみても、できたことはありません。でも実際に出会った視覚障害者の方は、見えているのではないかと思うくらいスムーズに行動したり、道具などを利用して生活されています。周りの人との助け合いがあれば、色んな職種でも働くことができるのではないかと思います。

審査員コメント

視覚に囚われないからこそ音の違いに気付ける、まさにバリアバリュー。聴覚が鋭いという特性を活かせる業務と感じました。

窪田 葵

視能訓練士養成校

【アイデア部門】

入選 佐堀 友香

第六感を使った職業 ～ヒーリングで人に癒しを～

視覚障害者の就労としてヒーラーという職業があると思います。ヒーラーとは生命・宇宙エネルギー、所謂、眼に見えないスピリチュアルな力を使って、人に癒しや浄化をもたらす仕事です。スピリチュアルと言ったら抵抗があるかもしれませんが、私は視覚を失ったからこそ、そういった感覚を得やすくなると思います。

他人にしたことはいずれ自分に返ってくるように、全てのものはバランスを取るようになっています。あるいは、ある大学に入るためには他の大学に入る選択を捨てる、というように、何かを得るためには何かを捨てなければいけません。五感のひとつを失ったのなら、別の感覚、例えば第六感といったものを得ることは、自然な流れであると私は思います。

マッサージとスピリチュアルは密接な関係があります。視覚障害の方が昔から鍼灸やマッサージが得意というのも、無意識に相手の「気」を感じ取って手からパワーを送っている、というような見えない力が関係しているのではないかと思います。

「失う」と「得る」は表裏一体だということ、眼に見えない力を用いること、このことからヒーラーという職業を極めるのもひとつの手ではないかと考えました。

審査員コメント

何かを失うことは何かを得ることである、という感覚はとても大切。

佐堀 友香

視能訓練士養成校 学生

【アイデア部門】

入選 林 茉友

視覚障害者がプロデュースする睡眠環境

睡眠の質を向上させる為には視覚を使う事よりも、その他の感覚的な情報が重要となります。その為睡眠環境のプロデュースは視覚障害者の方々が活躍できると考えました。

例えば触覚を活かしてマットレスや布団等寝具の開発を行えば、より肌触りの良さに特化した製品が出来ると考えます。他にも、嗅覚を活かしてアロマの調合を行ったり、寝る前には本を読む方や読み聞かせを聞く子供も多くいると思いますので、声を活かしてオーディオブックの作成をするのも良いと思いました。

また、ベッド等の家具も昇降式で上り下りしやすい物やアラーム機能が備わっている物等、視覚障害の方々ににとって使いやすい物が開発されれば、それは他の障害者や高齢者等誰にとっても使いやすいユニバーサルデザインの物になると思います。

障害の有無に関わらず誰にとっても、睡眠は生活の質を向上させるのに大切な事です。見えている人が考えた物では顧客層に取りこぼしがあっても、視覚障害者の視点で考えられた睡眠環境では全ての人が共通して快適と感じる環境になると思います。

審査員コメント

睡眠は心の健康にも体の健康にもとても重要、それを視覚障害者が様々な角度からサポートするというのは目からウロコ。まさしくバリアバリュー。

林 茉友

視能訓練士養成校 学生

【アイデア部門】

入選 宮崎 愛理

視覚障害者用の便利グッズ 実演販売

神戸アイセンターや他病院等で定期的に視覚障害者が1人でも生活できるようになる便利グッズや便利なスマホアプリ等を実際を使って説明するイベントを開催する。

視力を失ってしまった方や、そのご家族の方のこれからの生活が少しでも豊かになればという気持ちで考えました。

審査員コメント

世の中に視覚障害者に使いやすい商品、便利な商品は数多くありますが、その情報が視覚障害者本人や家族に届いていないケースは非常に多いと感じます。視覚障害者は、自分自身で商品情報にたどり着くことが難しいこともあるため、商品を実演販売してくれる機会は、メーカーにとっても視覚障害者にとってもメリットになります。とても素晴らしいアイデアだと思います。

宮崎 愛理

視能訓練士養成校 学生

【アイデア部門】

入選 竹内 美羽

視覚障がい者でも使える自動精算機

視覚障がい者の方の話聞く機会があった時に、コロナ渦で困ったことについて話をしていました。その中で人との接触が良くないという考えから自動精算機が普及したが見えないのでバーコードがスキャンできずに使えなかったと話をしていたのが記憶に残りました。みんなが同じ機械を使えるようになれば便利だと考え、このアイデアを思いつきました。具体的には、視覚障がいをもつ人はタッチパネルが分からないのでレジ袋が必要かどうかをボタンで操作したり、商品をスキャンする時も自分ではどこにバーコードがあるか分からないので、バーコードの近くに違う触り心地のシールを貼ってそこを目印にスキャンできれば有人のレジが無かった場合でも自由に買い物ができると思いました。

審査員コメント

今、セルフレジや無人店舗の普及が視覚障害者にとっての新たなバリアになりつつあります。特に代金を精算する場面は、お金やクレジットカードなどを扱う必要があることから、誰かに手伝ってもらうことなく視覚障害者も自分1人で行いたい場面です。ぜひ、画面情報が見えず、タッチパネルが使えなくても利用できるセルフレジや精算機を開発していただきたいと強く願っています。

竹内 美羽

視能訓練士養成校 学生

【アイデア部門】

入選 高川 鮎美

触れるだけで新しい物に出会うことが出来る

現在、日本ではITの進化がものすごい速さで進んでいると実感する毎日です。例えば大型衣料販売店では、購入したい商品を決められた場所に置くだけでどんな商品が置かれているか瞬時に判断しお会計までがとてもスムーズです。また、大手コンビニでは無人店舗に入って手に取った商品をそのまま鞆に入れて退店時にお会計が出来る仕組みがあります。

私自身コスメが大好きなのですが、視覚障害のある方がお買い物を一人でされる時にコスメをたくさん置いているお店に行ったらどの様な商品が並んでいるかわからない状況かと思います。既に知っている商品であればインターネットで購入出来ますが、実際に匂いがどの様な感じであるか、触り心地など確認したい時もたくさんあると思います。その時に、値札に触れると自分のスマホに入っているアプリと連動し商品名をイヤホンから流してくれればもっと色々な素敵なお品物と出会えるのではないかと考えました。商品名が分かることで今までは買いたかったけど買えなかったという気持ちにもならないだろうし、日々新商品が出る中でも諦めずに新しいものと出会っていける素敵な日々を送ることが出来るのではと思いました。

審査員コメント

目が不自由になるとどうしても新しい物に対して消極的になってしまう。実用的かつ心理面に与える効果も大きいアイデア。

高川 鮎美

視能訓練士養成校 学生

【アイデア部門】

入選 山西 浩平

点字の学びやすい環境作り

現在、視覚障害者の方のうち、点字の普及率は10%前後と学びました。

また、スマートフォンなど、電子機器の技術の発展が素晴らしく、視覚障害者の方の生活を支えていることの重要性を感じた一方で、将来、点字は無くなってしまわないか、また、これらの電子機器が使えない状況に陥った時、どうになってしまうのかという点が頭によぎりました。

最近では南海トラフ地震の発生確率が高まっており、また、他にも首都直下型地震、台風と、日本は災害が多い国です。

電気やネットが途絶えてしまうと、電子機器は使い物にならなくなってしまいます。その様な時、点字というツールは重要になる場面が出てくるのではないかと考えます。

また、普及率が下がるということは、今後、点字を教えることのできる人も少なくなるということであり、点字の普及率が下がっている理由の一つである学ぶ事へのハードルの高さは今後さらに上昇してしまう恐れがあると感じます。

このことに対し、例えば、スマートフォンやパソコン近年話題のAI技術を点字を学びやすくする環境作りに利用できれば、新しく点字を学ぶハードルを少しでも下げることができるのではないかと思います。

審査員コメント

白杖の歩行訓練も同様、教えられる人がどんどん減っているのは大きな問題。そこにAIを活用するのはグッドアイデア。海外ではAIの家庭教師がかなり普及し実績も上げていると聞く。わからない所を気兼ねなく何度も質問できる点字の先生としてAIは適任かも。

山西 浩平

視能訓練士養成校学生

【アイデア部門】

入選 山田 美典

ラジオパーソナリティ

声を出すお仕事で、情報源のひとつであるラジオを用いて、視覚がい者の体験談やQOLの上がる生活用具、機器、支援などどんなものがあるのかより多くの人に知ってもらえるように発信していくラジオパーソナリティ。

審査員コメント

視覚障害者は、視覚を使わない分、声で情報を伝えたり感情を読み取ったりすることにたけた人が多く、伝達手段が音に限られているラジオのパーソナリティーは、視覚障害者の能力を存分に発揮することができる仕事だと思います。

すでにNHKの「視覚障害ナビラジオ」などでパーソナリティーとして活躍している視覚障害者がいますが、より多くの視覚障害者がこの分野に携わっていけたらという願いを込めてアワードに選出いたしました。

山田 美典

視能訓練士養成校 学生

【アイデア部門】

入選 小川 琴乃

視覚障がい者の職業について

日常生活において80%の情報を目から得る。五感の中で1番重要なものが視覚である。そんな重要な視覚が不自由な視覚障がい者は日本では約30万人いると言われている。そんな中、生きていくためにはお金が必要であるため働かなくてはならない。そこで、情報の80%を得ることができない視覚障害者はどのような職業が向いているのかについて調べた。まず、医療職や運転手などの視覚を要する職業は難しいため、視覚以外の触覚や聴覚を活かす職業について調べた結果、声を使う職業について考えた。

声を使う職業は、声優やナレーター・配信者や司会者など様々な職業があった。その中でも、ラジオパーソナリティーは対面で人と接することも少なく、また体を動かしたり移動することも少ないため良いと考えた。

審査員コメント

視覚を使わない分、耳の感覚が繊細な視覚障害者がラジオの仕事に携わるというのは、シンプルですが、非常に実現性の高いアイデアだと感じます。現代社会は資格情報が多くなりすぎて、今、またラジオが注目されていますし、ラジオに限らずポッドキャストなど、音のメディアはこれからも十分な需要がある分野だと思います。

私も声と言葉にたけた視覚障害者がパーソナリティーを務める究極のラジオ、ぜひ聴いてみたいです。

小川 琴乃

視能訓練士養成校 学生

【アイデア部門】

入選 小川 遥叶

味覚と嗅覚のプロフェッショナル

私は視覚障害者の方の仕事に「官能検査員」という職業を提案する。

官能検査員の仕事は、飲料メーカーなどで味覚、嗅覚を最大限に使い、製品の不純物や品質などを細かく調べ飲料の出荷基準を満たしているか、味 香りを確認し安全性や雑味、カルキ臭などを嗅ぎ分け、品質維持を見極める仕事である。

品質や安全性だけでなく製品開発にも視覚障害者の才能と感性を活かせるのではないかと考えた。私達は飲み物を飲む時や食べ物を食べる時に見た目でも美味しそうと判断する以上に容器の手触りや音で判断している事も多いのではないだろうか。商品に触った時に飲み物のイメージができる容器の開発ができるのではないかと考えた。例えば夏であれば触った時に涼しさを感じられる様な手触りの容器。冬であれば、暖かさを感じやすい容器の開発などである。

聴覚を使つては、ペットボトルやカンを開けた時に出る音の響きが商品のイメージをアップさせるような容器の開発である。

この他にも、視覚障害の方であれば普段、視覚以外の感覚を研ぎ澄まして生活しているならではの発想や意見がきっと沢山あると思う、そしてもしも商品の開発まで行えた場合、視覚障害の方が商品を買った時に楽しく飲食できることはもちろん、全ての方が今まで以上に色々な感覚を使って楽しく飲食できるのではないかと考えた。

審査員コメント

飲料メーカーなどで、味と香りで商品の品質をチェックする「官能検査員」という仕事があることを初めて知りました!これは、まさに、普段から視覚以外の感覚を研ぎ澄ませて生活している視覚障害者の能力がいかに発揮できる仕事なのではないでしょうか。

小川 遥叶

私は幼い頃から視能訓練士の方にお世話になっていました、幼い私を相手に工夫しながら検査を楽しめる様に進めてくれました。

私もそんな素敵な視能訓練士になれるように今は専門学校に通い色々な知識をつけられるように勉強しています、多くの方に信頼される視能訓練士になれるように頑張ります。

【アイデア部門】

入選 大石 桃華

声で役に立つ

エレベーターやトイレ、博物館に水族館、動物園に植物館などの家族連れが多い商業施設の音声案内などの仕事に役に立つのではと考えました。目が見えないからこそ優しい話し方が出来るのではないかと思い、このアイデアにしました。

審査員コメント

発音や語り口が明瞭で説明が得意な視覚障害者は一定数存在する。実際にプラネタリウムの案内人をしている当事者も実在した。ぜひAIにはできない人間味のある解説をしていただきたい。

大石 桃華

視能訓練士養成校 学生